日 语

にほんご

（修改本）

第五册

上海外国语学院

シャンハイがいこくごがくいん

1976

日本語第一　目次

第一課　中国を訪れて

(一)　夜道……一

＊文法「ばかり」のまとめ……六

＊文型　①～ざるをえない　②――というもの　④――とはいえ、――……八

⑤～という・といった――……九

(二)　労働の尊重と差別の廃止……十

＊ことばの使い方　＊「異常なまでに」と「まで」……十八

＊文型　①～てならない　②～にしても……十九

③～をもって（して）も　④～のみならず……二一

課外読物）　海洋大学の訪中座談会……二二

課　ホラ貝の鳴る部落……二七

＊文型　①～よりも、むしろ　②～（か）といえば……三六

一課　北方領土問題とソ連覇権主義……三九

＊ことばの使い方……四八

＊（課外読物）　ソ連の北方領土占領、軍事基地化は、覇権主義の具体的現われである……五一

第四課　人間らしく生きたい……五六

＊ことばの使い方　(1)――ほかない　(2)関西方言……七〇
(3)「――てきた」の意味　(4)「――すら」　(5)なんとしても
(6)「――ずに」と「――ないで」の用法
＊〔課外読物〕　おらくさん……七四
第五課　沖縄の朝……八〇
＊文法　「とも」（終助詞・接続助詞・接尾語）……九八
＊文型
①～たらどうですか……九九
②～次第だ　③～ぐらいで　④～がもとで……一〇〇
⑤～をいいことにして　⑥～からといって……一〇一
⑦～ですもの・～ものだ・～というものだ・～ものか……一〇二
＊ことばの使い方
①こっち・そっち・あっち・どっち　②～てよ……一〇三
③俗語・方言……一〇四
第六課　大綦式の県を普及させる……一〇七
＊文法　①並列の表現のまとめ……一二〇
＊ことばの使い方　「大々的に」と「大いに」……一二四
＊〔課外読物　どのようにして収入を分配するのか……一二七

第七課　社会主義の道を前進する上海の郊外区……一三三
＊文型　①……つつある　②……につれて……一四七
＊文法　「……のもとで」と「……のもとに」の使い方について……一四九
＊ことばの使い方　「……やすい」と「……にくい」……一五一
第八課　婦人農民画家・李鳳蘭さんの十五年……一五五
＊文型
＊～どころではない　＊～ともなれば（～ともなると）……一七二
＊文法
＊終助詞「か」のまとめ……一七四
＊終助詞「な」のまとめ……一七五
＊ことばの使い方
＊形式体言「はず」……一七五
＊「思い」の使い方いろいろ……一七七
（課外読物）　私はなぜ労農兵を描くのか……一八〇
第九課　半斤のゴマ……一八七
＊文型
＊（出席する）ことは（出席する）が、～……一〇二
＊～の余り、～　＊（～た）ことにする……一〇三

＊文法

＊（―）だって（副助詞）……二〇四
＊ことはの使い方
＊「気」を用いた慣用句……二〇四
＊「なんと」の使い方……二〇五
＊「だめ」の使い方……二〇六
＊「――がる」（接尾詞）　＊「――ごと」（接尾語）……二〇七
＊「――よう」　＊「――ぶみれ・――だらけ」……二〇八

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第一課　中国を訪れて

(一)　夜　道

小田和生

私たちの飛行機が北京空港に着いたのは、夜もかなり遅い時刻だった。たしか十時を廻っていただろう。

広いアスファルトの道路を車で、私ははじめ森の中を走っているのかと思った。街燈が暗いのと、両側の並木がそれほどうっ蒼と枝を重ねあうようにして茂っていたからだ。

しばらくして目が馴れてくると、並木は車道と人道と二重になっていて、だから人道はさながら青葉のトンネルである。

「暗くてよくわからないが、あれは槐樹だろうかモチの木だろうか、なんだろう。たしか林語堂①の随筆に北京の街路樹のことが詳しく書かれていたのだが……」

ぼんやり考えながら眺めていると、その薄暗い歩道のむこうから、おさげ髪の娘が、ひとりでトコトコ歩いて来るのに出会った。「アレ、こんなに夜更に、こんな淋しい道を……」私は思わず目を見張った。

少し行くと、今度は二人連れの。これもおさげ髪の娘が話しあいながらやってくる。少しといっても車は七十キロのスピードで飛ばしているのだから、先の娘と後の二人連れとでは二キロや三キロの隔りはあるはずだ。その間、絶えて人影のない深夜の道を、だが娘たちはいっこうに闇を恐れる様子もなく、ただ時間が遅いから家路を急いでいるだけといった、如何にも軽い足取りなのだ。驚いてしまった。

私がいま住んでいるところは郊外の住宅地で、バスの停留所から四〇〇米ほど離れた地点だが、その間に「ち漢に注意」の立札が三枚も立っている。つまり一〇〇米に一枚の割である。ずいぶん念の入った話だが、「ちかごろ赤シャツの男がうろついています。気をつけて下さい」といった回覧板が町内会②から廻って来たりすると、やはり年ごろの娘を持つ親としては、驚戒せざるを得ないことになってくる。

去年高校を卒業して勤めに出た娘が、組合の執行委員を仰せつかったばかりに、私はこの春、とんだ憂目にあわされた。春闘③が妥結するまでの一月間というもの、ほとんど毎晩のように娘の帰宅が遅くなる。それを出迎えるのが父親の私の役目になってしまったからだ。四月とはいえ、夜風が肌にしみる。そんな吹きさらしの停留所で遅れて来る終バスを苛々しながら待つことの情なさ。馬鹿らしさ——

中国は発展途上国で、超大国ではありません。将来も超大国にはなりません」今度大阪で開かれた中国展の開幕式で、団長の李永亨さんはこう挨拶したが、その模様をテレビの中継で見ながら、ふと北京空港から市内へ向う夜道の光景を思い出し、「いったいGNP世界第二位を誇る経済大国日本④と、発展途上国の中国と、どちらが文化国家なのだろう」と、私はひとりでぶつぶつ呟いていた。

（「流域」第六号より）

（註）

① 杯語堂（りんごどう・一八九五――？）
福建省生まれの反動的な文人　一九三六年、アメリカに移住。

② 町内会（ちょうないかい）
日本の市街地の住民の自治組織であるとともに、行政機構の末端組織として市政伝達やするほか、防犯、衛生指導などを行なう。

③ 春闘（春季闘争）
ここ十数年来、日本の労働者は毎年春になると、独占資本の残酷な搾取と圧迫に反対して"春闘"と呼ばれるたたかいを大規模にくりひろげてきている。春闘は、日本の労働者階級の団結と力を十分に示したものである。

④ 経済大国

第二次大戦後三十年米、日本の経済は、――主に重化学工業であるが、急速な発展を遂へと）げ、主要資本主義諸国に追いつき、追い越した。それで、日本の支配階級は、日本を〝経済大国〟と言っている。しかし、日本の経済は、農業を犠牲にして重化学工業を盲目的（もうもくてき）に拡大したものである。

日本経済の発展は、奇形的（きけいてき）なものであり、かたよった（＝片面的）ものである。加えるに（＝加之）、大量の石油、鉄鉱石（てっこうせき）、アルミ（＝鉛）などの主要工業原料や穀物などを外国に依存（いそん）しなければならないことから、日本経済の脆弱性（ぜいじゃくせい）は伺い知る（うかがいしる＝看出）ことができよう。

☆ 新出単語

☆夜道（よみち） ＝夜路
時刻（じこく） ＝时刻，时候
たしか ＝大概
☆廻る（まわる） ＝转，（时间）过
☆アスファルト ＝柏油，青沥油
☆森（もり） ＝森林

☆街燈（がいとう）
☆並木（なみき） ＝路傍的树木，街树
☆うっそうと茂る（しげる）＝草木繁茂
☆枝（えだ） ＝树枝
☆馴れる（なれる） ＝習慣了，适应
しさなからだ＝与一模一样

さながら＝まるで　＝恰同
青葉（あおば）
モチの木　＝冬青树
随筆（ずいひつ）
☆街路樹（がいろじゅ）
☆薄暗い（うすぐらい）＝微暗
トコトコ　＝（急步快走貌）
アレ（感嘆詞）　＝唉呀
☆夜更け（よふけ）　＝深夜
☆淋しい（さびしい）　＝寂寞的、冷清的
☆目を見張る（みはる）　＝瞠目惊视
☆飛ばす　「飛ぶ」の他動詞。
☆連れ（つれ）　＝同伴
隔り（へだたり）　＝距離
絶えて（たえて）～ない＝长时间来）一点儿也不（没）～
☆いっこう（一向）に～ない
（某事・人）一点儿也不～。

闇（やみ）　＝（夜间的）黑暗
家路（いえじ）　＝归路
いかにも　如何にも）　＝实在，的的确确
足取り（あしどり）　＝走路的步伐
ち漢（痴かん）　＝色情狂
立札（たてふだ）　＝告示牌
念の入（い）った話（慣用語）＝实在用心周到
☆うろつく　＝徘徊，打转转
回覧板（かいらんばん）　＝（貼告示送去）传阅的板
年ごろ（とし頃）①大约的年令　②妙令的女性
☆高校（こうこう）　＝高中
☆勤（つと）めに出る　＝上班工作去
☆組合（くみあい）「労働組合」の略＝工会
執行（しっこう）
（～を）仰せつかる（おおせつかる）＝～を言いつけられる　＝被任命为～、被关照做～
とんだ憂目（うきめ）にあう＝遭受意想不到的痛苦

妥協（だけつ）‖交渉等）妥协

帰毛（きたく）　家に帰ること

肌（はだ）にしみる（染みる）‖刺骨

吹きさらし（ふき曝し）‖暴露在风里

☆終バス（しゅう——）‖末班（公共汽・车

苛苛（いらいら）する　‖焦躁

☆情（なさけ）ない（形）‖可怜的

☆馬鹿（ばか）らしい（形）‖无聊的

☆模様（もよう）‖情形

中継（ちゅうけい）‖转播

☆GNP　‖国民生产总值

ぶつぶつ　‖小声嘟囔

呟く（つぶやく）‖嘟哝

☆文　法

「ばかり」のまとめ

① *わたしは三年ばかり（‖ほど）北京にいました。‖大约

② *いつもお世話になってばかりで、すみません。‖老是～

*ここ一カ月は見本市（みほんいち‖商品展覧会）に出すものばかり訳してきました。‖净，全是～

*この冬はかぜばかりひいて調子が悪い。

③ *政治的自覚を高めるばかりでなく（‖だけでなく）、業務にも精通するように努力しなければならない。‖不仅～而且～

*かればかりか（‖だけでなく）、わたしも全然知らなかった。‖不但～而且～

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

④ ＊このボールペン（＝原子笔）はきのう買ったばかりです。＝刚！

⑤ ＊小宝は、仇討ちはこの時とばかりに、ポカポカと〃皮はぎの周〃をなぐりつけた。＝认为正好是机会，趁！

⑥ ＊いまにも雨が降らんばかりの天気＝几乎要！

＊天をも突かんばかりの意気込み＝冲天干劲

（以上既出）

⑦ ＊きのう新華書店で「水滸伝全書」を売っていたが、金が足りなかったばかりに、買いそこなった。（＝没买到）。＝只因办！（而）

＊きのう、ちょっと注意をしなかったばかりに、とんでもない失敗をしてしまいました。

（説明） ⑦は「～たばかりに」の上の事柄が原因となって、物事（＝事情）が悪い状態・結果になることを表わす。

☆ 文 型

㈠ 「（動詞未然形）ざるを得（え）ない」＝不得不！

「ざる」は文語の助動詞「ず」の連体形が口語に残ったもので、文章語的表現や慣用語的表現に使われる。

＊もう終バスも終電車もないから、歩いて帰らざるを得ないね。

＊きみに頼まれたんじゃ、承知（しょうち＝同意）せざるを得ないな。

☆「ざる」の用例――（主に連体修飾語として）

＊知られざる秘境　＊たゆまざる努力＝不松懈的――

＊動かすべからざる事実＝否定できない――

㈡「（時間を表わすことば＋）　というもの」

＊ひどい胃出血（しゅっけつ）で、一週間というものスープ（＝湯）やジュース（＝果汁）以外はなにも食べられなかった。＝整整一星期

＊大綦に学ぶ運動の中で、孔子や林彪の鼓吹した「天命観」をきびしく批判した広範な貧農・下層中農は、大自然とたたかう意欲をいっそう燃した。それからというもの、全国各地に大綦式の新農村がますます多く現われはじめた。＝从此以后

（説明）「――というもの」は、上のことばの語気を強める役割を果す。

㈢「（体言・文）とはいえ、――」＝虽説～，但是～。

＊春とはいえ、まだ肌寒い。

＊農閑期とはいえ、今どこでも大綦にならって農地の基本建設で、農繁期におとらず忙しい。

＊わたしのいた農場は上海市所属とはいえ、安徽省にあります。

＊わたしたちの教育革命はかなりの成績を収めているとはいえ、究の要求から見たらまだ程遠い（ほどとおい＝差得远）。

（註）「――とはいえ」は、「～と（は）いっても」に言い変えることができる。

(四)「(体言・終止形)という・といった」‖叫做，所谓，的，这种，～之类的。

* 具体的な意味をもつ場合(‖叫做，所谓)と、単に接続の役割又は文法的な役割、語感を強めるだけの二通りある。絶対的ではないが、一般的にいって「～といった」を使うと「軽視した・軽んじた」(‖贬义)言い方になる用例が多い。

* さっき汪さんという方からお電話がありました。‖叫做

* 「永久の平和」というものがあるわけがあろうか。‖所谓的

* 華南はもう初夏(しょか)だというのに、ハルピンはまだ冬ですよ。‖(……な)のに

* 肉体労働を尊重するということは決して精神労働を軽視することではない。‖这种

* 「この前お願いした翻訳はもうできましたか」

「いいえ、まだです。体がわるくて、一日中翻訳してもやっと原稿二、三枚といった調子ですから。すみませんけど、もう一週間ほど待ってください」

* 字引を引いては考え、考えては引くといった調子だから、余り進みません。

* いまでこそ映画や芝居はいつでも見られるが、解放前だと年に一度よそからやってくる芝居が見られたら、ますしい農民はそれでもう非常に満足しているといった状態であった。

(註)「～ということ(話)だ」‖据说

☆ 研究項目

① 北京で暗い夜道を、なんの恐れる様子もなく若い女性がひとりで歩いているのを見て、日本人である作者はびっくりしている。もちろん、日本の社会の現実と結びつけてである。日本の状況

をよく調べ、これはどういう問題で、その原因はなんであるかを考えてみよう。

(二) 労働の尊重と差別の廃止

大島 清

昨年(一九七四年)春、広州市の新滘人民公社を訪ねたときのこと。ここは米と果物と野菜を中心にした都市近郊の農村であるが、豊じょうな珠江の三角州にある耕地は四季緑を絶やすことがない。広い野菜畑には、青カブやレタスなど幾種類かの青物がびっしり植えられている。その耕地の上には、とり入れする農婦、肥料を運ぶ農夫にまじって、鍬をかつぐ娘たち、車のあと押しをする子どもたちの姿もあった。それはじつに生き生きとした集団労働の光景で、畑の向こうに連なる茘枝やオリーブのうっそうたる林を背景に一幅の絵であった。

中国の天地をその両腕でささえている農民たちの活気に満ちた集団労働の場面を見たとき、とつさに私は、こういう光景はいまの日本の農村にはほとんど目にすることができなくなったことを思った。若者は村を去って都市に職を求め、壮年は出かせぎするか通勤バスで工場に通い、あとには老人と子どもが残されている。子どもは親について労働することをやめ、上級学校への試験勉強に頭をしぼるか、テレビを眺めて日を送る。親子の"断絶"はむろんのこと、教育と労働の分離したところに子どもたちの不幸がはじまったように思えてならない。

中国の農村はどうか、子どもは親とともに働き、働くことの貴さを学び、その労働を通して社会とつながってゆく、学校に行っても、生徒の学習と労働は結びつき、その点では教師もまた例

外ではない。中国はまだ後進国①で、生産過程の機械化が日本ほどすすんでいないから、あんなに肉体労働を尊重し、幹部まで集団労働に参加させているのだろうなどと考えたら、それはとんでもない間違いである。中国が現在、あれほど肉体労働を重視し、尊重するのは、労働人民こそが歴史のほんとうの担い手であり創造者であることを、指導者がじゅうぶんに認識している結果であろう。この認識が薄れると、国や集団の指導・管理を担当する幹部の官僚化が必然的に生じ、精神労働に従う少数者による特権階級が形成される。そうなったら歴史の創造者たる労働人民の創意は抑制され、社会主義の目的も実現できなくなるだろう。ツルハシを振るい、旋盤をまわす肉体労働を尊重するのは、労働者をおだててつらい仕事にかりたてる政治家の狡智によるものではないと思う。

教育と労働の結合にしても、カール・マルクスの支持した教育原理である。中国が、小学校から大学まで、この原理を徹底的に実践している事実に接して私は深い感銘をうけた。知識青年が毎年、集団をなして農村に下放し、人民公社の農耕や教育や医療の仕事に従事している姿も、労働を尊重する中国の心の現れであろう。高等教育を受けた青年なら、やがて党や国家の中心的な幹部となる将来を約束された人たちであろうが、そういう青年を、国の最も後れた、生活の不便な奥地の農村に住まわせ、労働によって歴史を創造しつつある貧農から学ばせるという発想・党や国家の命令や強制によってでなく、多くの若者がすすんで労働のるつぼに身を投じ、みずからも労働する農民の一員となって生活している事実は、おそらく多くの日本人の理解を超えることであろう。私自身のことを言えば、中国を訪問して下放知識青年と直接話し合い、彼らの心にふ

れるまでは半信半疑でいたことを告白しなければならない。労働を尊重し、集団に奉仕するということは、現在の中国の青年が自をもって実践している原理であると思われるが、それはまた何も青年に限られたことではあるまい。そして私はこう思う——肉体労働を尊重するということは決して精神労働を軽視することではなく、この二種類の労働の対立と差別をなくしようという社会主義の高い理想から発した思想にもとづくものであろう、と。"心を労する者"が"身を労する者"に養われるのは天理であるという孔子の説いた奴隷社会の道徳——それは奴隷社会のみならず、数千年来のすべての階級社会における支配階級の道徳である——こういう労働人民にとって過酷な道徳を打ち破り、精神労働も肉体労働もともに同じ人間の創造的活動の二つの側面であり、この両者を階級間の対立と差別に分化し固定することの非人間性を改めようというのが社会主義の主張であり目標であろう。社会主義国としての中国が他に際立って特に注目をひく点は、その"三大差別の解消"の実践にあると思うが、この中で最もむつかしいのが精神労働と肉体労働の対立・差別の解消ではないであろうか。

資本主義社会では、工業が農業を収奪し、都市が農村を支配するというのが、ほとんどの国の常態であるが、特にわが日本ではそれが異状なまでに極端な状況を呈している。重化学工業の高度成長のために農家は働き手と土地を奪われ、漁民は公害に海を汚され肉体を奇病に犯されてしまう。その対極に、都市の人口過密と住宅難と交通戦争の激化がある。社会と経済の仕組みをこのままにしておいて、何が国民福祉、教育の充実、文化の向上などといえるものか。少数の指導的管理者と大多数の労働者、農民との対立・差別をそのままにしておいて、何が民主主義であろ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com